

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成27年4月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

原子力安全を最優先に 取り組みを進めてまいります

福島第二原子力発電所
所長 設楽 親



- 平成23年3月の事故以降、4年が経過いたしました。今もなお、多くの方が避難を余儀なくされており、多大なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、改めてお詫び申し上げます。
- 当所では、この度の3号機の燃料移動作業が終了したことで、すべての号機において、燃料を使用済燃料プールで一括管理いたします。
- 地域のみなさまにご心配をおかけすることがないように、燃料をしっかりと冷却し、安定した状態を保っていくことが、当所の最大の使命です。
- 原子力安全を最優先に、今後とも、燃料冷却設備の点検・保守、安全性の向上に取り組むとともに、所員の技術・技能の向上に努めてまいります。



原子力安全を最優先
安定した燃料冷却の継続
直営技術力の向上



作業現場に隠れた危険箇所を見つけて 災害発生の防止につなげます

- 当所では、作業現場に隠れている危険箇所を見つけ出し、災害の発生を未然に防ぐことを目的とした「危険予知研修」を4月9日、10日の2日間で行いました。
- この研修は、主に工事を監理する所員を対象として、実際に組み立てられた足場とマネキンを使って、作業現場を再現した研修設備で実施しました。この研修設備には、いくつかの危険箇所や不安全行為が隠されており、参加者は現場の状況を観察して、それらを見出すというものです。
- 危険を予知する力を身に付けることで、実際の作業現場でも災害発生の防止に役立つものと考えています。
- 引き続き研修を重ね、安全意識の向上に努めていきます。



マネキンを使った作業現場の再現



危険箇所をチェックしている様子



参加者全員による危険箇所の確認



安全帯を使用したぶら下がり体感

発電所敷地境界付近に設置している モニタリングポストの取り替えを実施しました

- 当所は、発電所敷地境界付近に7基のモニタリングポストを設置し、空間放射線量率（1時間あたりの放射線の量）を連続測定・監視して、測定値に有意な変動がないかを確認しています。
- そのうち5基について、2月に計画的な取り替えを実施し、正常に測定できることを確認したうえで、原子力規制庁へ放射線測定設備に関する検査の申請を行っていました（他2基については平成24年に取り替え済み）。
- このたび、原子力規制庁によって、今回の取り替えに伴う放射線測定設備の検査が行われ、問題がないことを確認いただいています。
- 今後も、日々の管理や定期点検をしっかりと行い、正確な測定による監視を継続していきます。



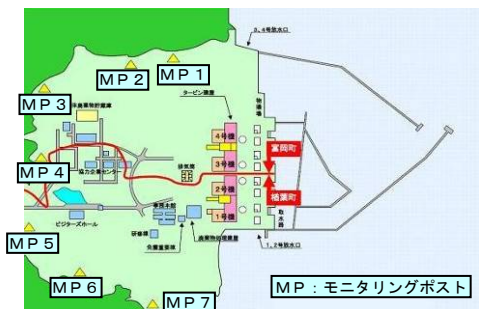
空間放射線量率を測定する検出器の確認



中央制御室でのデータ表示確認



モニタリング局舎でのデータ確認



発電所敷地境界の設置状況

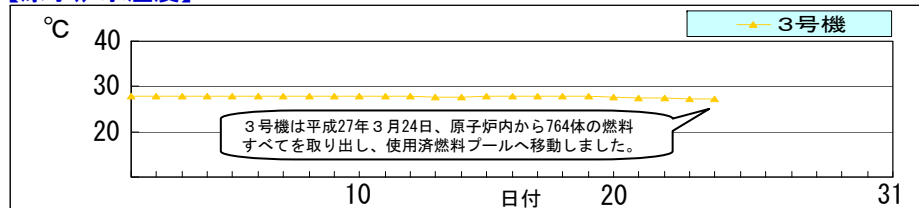
モニタリングポストの値については、当社ホームページにてご覧いただけます。
<URL><http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html>

【プラントデータ】

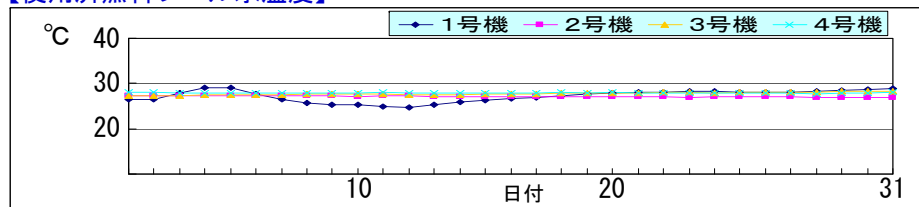
燃料の冷却状況（3月分）

原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【原子炉水温度】



【使用済燃料プール水温度】



さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。

<URL>

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

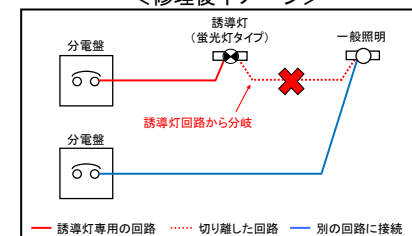
<QRコード>



原子炉建屋・タービン建屋などの誘導灯の修理を行いました

- 誘導灯には様々なタイプがあり、蛍光灯に見えても非常時に通路を照らして誘導灯の役割を果たすものもあります(写真参照)。
- 誘導灯の電源は、法令で専用の回路とするように定められていることから、原子炉建屋などの誘導灯の電源について調査を行ってきました(昨年8月号でお知らせ済み)。
- 調査の結果、誘導灯と一般照明の電源回路が接続されていた事例を6箇所確認し、本年3月末までに当該箇所の修理をすべて完了しました。

<修理後イメージ>



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き安定した燃料の冷却を継続してまいります。

【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ
tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時